

クイック・スタート



はじめに (開発者メッセージ).....	2
主な特長	3
準備編	4
各部の名称とはたらき	4
本機の概要	8
電源を入れる/切る	9
デモ・ソングを再生する	9
基本操作	10
シンセサイザー編 (演奏する).....	11
トーンを選ぶ	11
演奏の設定をする	12
演奏の機能を使う	13
リアルタイムに音を変化させる	14
お気に入りの音色を登録/呼び出す (フェイバリット) ..	16
シンセサイザー編 (エディットする).....	17
スタジオ・セットをエディットする	17
トーンをエディットする	17
エフェクトをエディットする	18
スタジオ・セット、トーン、ソングを保存する	18

サンプラー編 (録音する).....	19
サンプルを再生する	19
サンプリングする	20
シーケンサー編 (曲を作る)	21
ソングを選ぶ/再生する	21
演奏を録音する (リアルタイム・レコーディング).....	22
DAW コントロール編	24
MIDIトラックを DAW ソフトウェアに取り込む	24
本機を DAW コントローラーとして使う	25
設定編	26
各機能の詳細設定をする (Menu)	26
ユーザー・データをバックアップする (Backup / Restore)	26
工場出荷時の設定に戻す (Factory Reset)	26
安全上のご注意	27
使用上のご注意	27

紙マニュアル

- ・ **クイック・スタート (本書)**
基本的な操作方法について解説しています。
- ・ **安全上のご注意 (別紙)**
最初に読んでください。本機を正しく使うための注意文を記載しています。

PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。
<http://roland.cm/om>
2. 製品名 **[FA-06]**、**[FA-07]**、または **[FA-08]** を選んでください。



PDF マニュアル (Web からダウンロード)

PDF マニュアルは、用語を素早く検索したり、リンクをクリックするだけで見たい項目を表示したりすることができます。

- ・ **リファレンス・マニュアル**
本機のすべての機能について解説しています。
- ・ **パラメーター・ガイド**
本機のパラメーターについて解説しています。
- ・ **サウンド・リスト**
本機に収録されている音色のリストです。
- ・ **アプリケーション・ガイド**
本機の具体的な演奏例や使いかたについて解説しています。
- ・ **MIDI インプリメンテーション**
MIDI メッセージの詳細資料です。

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に『安全上のご注意』と『使用上のご注意』（『安全上のご注意』チラシとクイック・スタート (P.27)）をよくお読みください。また、本機の優れた機能を十分ご理解いただくためにもクイック・スタートをよくお読みください。クイック・スタートは必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

はじめに（開発者メッセージ）

「ゼロから音楽を生み出す新しいワークステーション、FA-06/07/08」

ワークステーションは、ステージでの演奏やそのための楽曲制作など幅広いクリエイティブな活動で、多くのクリエイターやミュージシャンに使われています。

私たちは「時代や技術が変わっても、ただいろいろなことのできる便利なモノというだけでなく、クリエイティビティーを最優先して新しい音楽を創り出すことを最大限サポートしたい。」という思いで、新たにワークステーションを再構築、開発しました。それがFA-06/07/08です。

FA-06/07/08を開発するにあたり、まず考えたのが起動時間を短くすることです。弾きたいと思ったときや、フレーズのイメージがパッと湧いた瞬間に電源を入れたが、何分も待っているうちにイメージを忘れてしまった。このような経験をお持ちのかたであれば、早い起動時間がどれほど高い価値なのか、わかっていただけたと思います。

サンプラーも、メモリーへのロード時間が不要となる、SDカードから読み出す方式を採用しました。パッドを叩くだけで発音するシンプルな操作は、現代の多くの音楽シーンにマッチすると考えています。

フラッグシップ音源 INTEGRA-7 直系の高品質なサウンドは、ライブや制作で十分なクオリティーを発揮するだけでなく、普段の何気ない演奏においてもインスピレーションを湧き起こす表現力を備えています。SuperNATURAL シンセ・トーンは INTEGRA-7 との互換性を持ち、音色ライブラリー・サイト Axial にある多彩な種類の音色を追加することができます。また、本体の Wave メモリーをお好みの音色に差し替えることもできます。膨大なライブラリーに対応することで、長年にわたってご活用いただける楽器を作ることを目指しました。

トラックメイクの手順を極力減らすことで、イメージを途切れさせることなく作曲に没頭できるノンストップ・レコーディングは、現代のワークステーションに欠かせないシーケンサーの機能と考えました。

作ったアイデア・フレーズをスムーズに DAW へ移行できるように、各 MIDIトラックを独立したオーディオ・データに書き出すマルチトラック・エクスポート機能も準備しました。もちろん、2 ミックスでのエクスポートや SMF エクスポートにも対応しています。また、DAW を活用した楽曲制作環境に対応するべく、シンプルにパソコンとつながり、音源、コントローラー、インターフェースとして使うことができる DAW コントロール機能を搭載しています。

何も無いゼロの状態から新しい音楽を生み出していけるようにしたい。そのために、これまでの制作ワークフローを過去のものとし、新しいワークフローを DAW との連携も含め再構築しました。

新しくゼロから再生したワークステーション、それがFA-06/07/08です。

ゼロから生まれたインスピレーションが、FA-06/07/08 と共に新しい音楽として生み出されることを願っています。

FA-06/07/08 開発チーム

*1 Axial は、ローランド・シンセサイザーの追加音色をダウンロードすることができる音色ライブラリー・サイトです。
<http://axial.roland.com/>



主な特長

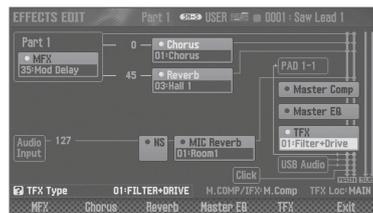
フラッグ・シップ・モデルの音源を搭載

- 上位クラスの音源を搭載し、最新の SuperNATURAL Acoustic、SuperNATURAL Synth から PCM、Wave 込みの拡張音色スロットまで対応しています。
- SuperNATURAL シンセ・トーンは INTEGRA-7 と完全互換。トーンのインポートにも対応し、音色ライブラリー・サイト Axial から供給される音色など、クラスを超えた膨大なサウンド・ライブラリーを使用できます。
- SuperNATURAL アコースティック・トーンは、ピアノ、エレピ、オルガン、ベース、ギター、ストリングス、ドラムを中心にセレクト。最新の表現力をライブや音楽制作に活用できます。



全パート MFX などの、強力なエフェクト・システム

- 自由にダイナミックな音色エディットを実現する MFX (マルチ・エフェクト) を全 16 パートに搭載しています。
- 音の最終段には、DJ FX Looper、Isolator など、パフォーマンスに最適なエフェクト [TFX] (トータル・エフェクト) を搭載しています。
- SOUND MODIFY つまみを使って、多彩なエフェクトをリアルタイムにコントロールできます。



歌、ドラム、ループなどのオーディオ素材を自在に操るサンプル・パッド

- 16 個のパッドで、オーディオ・サンプルを使った演奏ができます。
- 歌素材を使用したリミックスやオーディオ・ループをバックに演奏したり、ドラム、ギター、効果音を演奏に活用したりと、ライブや楽曲制作の幅を大きく広げることができます。
- クリップ・ボードを使って、サンプル素材をライブごとに素早く並べ替えることができます。
- サンプルはシーケンサーからのトリガーにも対応しています。オーディオ素材を、演奏だけでなく音楽制作にも活用できます。
- マイクやギターの音をサンプリングできます。サンプル・エディットにも対応し、サンプルの再生位置やレベルをつまみで素早く調節することができます。
- WAV、AIFF、MP3 をインポートすることで、既存のオーディオ素材を活用することができます (エクスポートは WAV フォーマットのみ対応)。
- サンプルの再生以外にもいろいろな機能をコントロールできます。音源パートをミュートするパフォーマンスをしたり、数値入力に使用したりと、素早く快適な操作子としても活用できます (PAD UTILITY)。



イメージを途切れさせないレコーディングを実現するライブ感覚の新シーケンサー

- イメージが湧いた瞬間に、どの演奏状態でも録音ボタンを押して録音を開始できます。インスピレーションを逃さないレコーディング・システムです。
- ループ録音時の手順を最小限にしたノンストップ・レコーディングに対応しています。次々とアイデア・フレーズを作り出すことができる、素早いトラック・メイクを実現しています。
- リバース、コーラス、コンプレッサーといったマスター・エフェクトも搭載しています。本機だけで曲の完成に近い形にすることができます。



DAW と連携した楽曲制作。音源、コントローラー、オーディオ・インターフェースのトータル・パッケージ

- 本機で DAW をコントロールすることができます (DAW のコントロール・マップを搭載)。鍵盤やつまみを使った、ソフトウェア音源や本体音源の演奏にも対応しています。
- 本機で作った MIDI トラックを、DAW へ素早く移行できます。マルチトラック・エクスポートでトラックごとに WAV 変換することができます。もちろん、2 ミックスでのエクスポートや SMF エクスポートもサポートしています。
- オーディオ・インターフェースとしても使うことができます。本機に接続したマイクやギターの音を DAW で録音できます。
- DAW の音声再生にも対応しています。



English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

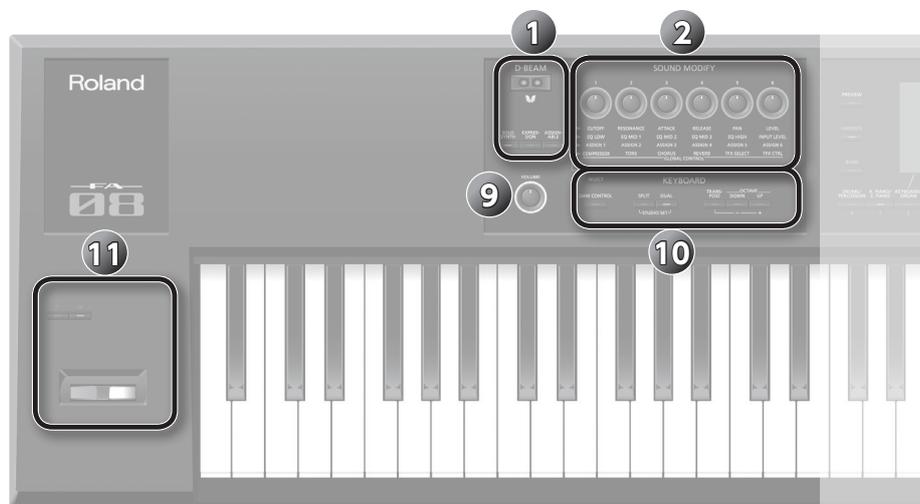
Español

Português

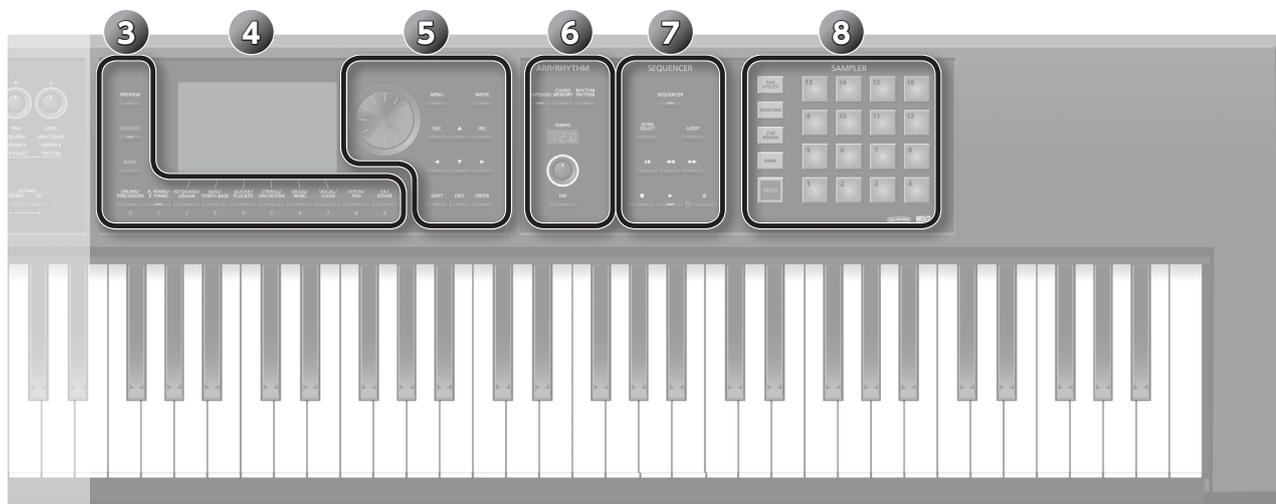
Nederlands

各部の名称とはたらき

トップ・パネル



番号	エリア	名称	説明	ページ
①	D-BEAM	D-BEAM コントローラー	D-BEAM に手をかざして、音にいろいろな効果をかけます。	P.14
		[SOLO SYNTH] ボタン	D-BEAM コントローラーにかざした手の動きにしたがって、モノフォニック・シンセサイザーを鳴らすことができます。	
		[EXPRESSION] ボタン	D-BEAM コントローラーでボリュームをコントロールできます。	
		[ASSIGNABLE] ボタン	いろいろなパラメーターや機能を割り当てて、音色をリアルタイムに変化させることができます。	
②	SOUND MODIFY	[1] ~ [6] つまみ	[SELECT] ボタンで選んだパラメーターをコントロールできます。	P.15
		[SELECT] ボタン	[1] ~ [6] つまみでコントロールするパラメーターのグループを選びます。	
③		[PREVIEW] ボタン	このボタンを押している間、現在選んでいるトーンを試聴できます。	P.11
		[FAVORITE] ボタン	お気に入りのトーンやスタジオ・セットを、[0] ~ [9] ボタンに登録することができます。	P.16
		FAVORITE [BANK] ボタン		
③		トーン・ボタン ([0] ~ [9])	トーンのカテゴリー・グループを選びます。 [FAVORITE] ボタンまたは [BANK] ボタンが点灯しているときは、[0] ~ [9] ボタンとして機能します。 また、画面の下に表示された機能を実行するときは、ファンクション・ボタン ([2] ~ [7] ボタン) として機能します。	P.11
		④	ディスプレイ	ディスプレイ
⑤		ダイヤル	値を変更します。 [SHIFT] ボタンを押しながらダイヤルを回すと、値が大きく変わります。	P.10
		[MENU] ボタン	各機能の詳細設定をします。	P.26
		[WRITE] ボタン	スタジオ・セット、トーン、ソングを保存します。	P.18
		[DEC] [INC] ボタン	値を変更します。 片方のボタンを押しながら、もう一方のボタンを押すと値が速く変わります。また、[SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、値が大きく変わります。	P.10
		[▲] [▼] [◀] [▶] ボタン	カーソル位置を上下左右に移動します。	P.10
		[SHIFT] ボタン	他のボタンと組み合わせて押すと、関連する設定画面を表示します。	P.10
		[EXIT] ボタン	元の画面に戻ったり、開いているウィンドウを閉じたりします。	P.10
		[ENTER] ボタン	値の確定、操作の実行、またはトーンのリストなどを表示するときに使います。	P.10
⑥	ARP/RHYTHM	[ARPEGGIO] ボタン	アルペジオ機能をオン/オフします。	P.13
		[CHORD MEMORY] ボタン	コード・メモリー機能をオン/オフします。	P.13
		[RHYTHM PATTERN] ボタン	RHYTHM PATTERN 画面を表示します。	P.13
		TEMPO インジケーター	テンポを表示します。	P.13
		[TEMPO] つまみ	テンポを変更します。	
		[TAP] ボタン	ボタンを繰り返し押しした間隔で、テンポを設定します。	



番号	エリア	名称	説明	ページ
7	SEQUENCER	[SEQUENCER] ボタン	SEQUENCER 画面を表示します。	P.22
		[SONG SELECT] ボタン	ソングを選びます。	P.21
		[LOOP] ボタン	ソングのループ再生、オーバーダビングをします。	P.21
		[◀] ボタン	ソング・ポジションを先頭へ移動します。再生中に押しすと、曲の先頭に戻って停止します。	P.21
		[◀◀] [▶▶] ボタン	ソング・ポジションを 1 小節前/次の小節の 1 拍目に移動します。	
		[■] ボタン	ソングの再生や録音を停止します。	
				[▶] ボタン
		[●] ボタン	録音待機状態になります。	P.22
8	SAMPLER	[PAD UTILITY] ボタン	サンプルの状態表示、エディット、インポートをします。また、サンプラー以外の機能を設定することもできます。	P.19
		[SAMPLING] ボタン	サンプリングします。	P.20
		[CLIP BOARD] ボタン	サンプルをパッドからパッドへ移動したり、コピーしたりできます。	P.19
		[BANK] ボタン	パッドのバンクを切り替えます。	
		[HOLD] ボタン	サンプルを再生し続けることができます。	
		パッド [1] ~ [16]	パッドに割り当てられているサンプルを再生します。	
9		[VOLUME] つまみ	MAIN OUTPUT 端子、PHONES 端子から出力する音量を調節します。	P.9
10	KEYBOARD	[DAW CONTROL] ボタン	DAW のコントローラーとして使うことができます。	P.25
		[SPLIT] ボタン	スプリット機能をオン/オフします。	P.12
		[DUAL] ボタン	デュアル機能をオン/オフします。	P.12
		[TRANSCOPE] ボタン	このボタンを押しながら OCTAVE [DOWN] [UP] ボタンを押すと、鍵域を半音単位で上げ下げできます。	P.12
		OCTAVE [DOWN] [UP] ボタン	鍵域をオクターブ単位で上げ下げできます。	P.12
11	コントローラー	[S1] [S2] ボタン	いろいろなパラメーターや機能を割り当てることができます。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、機能を割り当てる画面が表示されます。	P.14
		ピッチ・ベンド/ モジュレーション・レバー	ピッチ (音の高さ) を変化させたり、ビブラートをかけたりします。	

リア・パネル（機器を接続する）



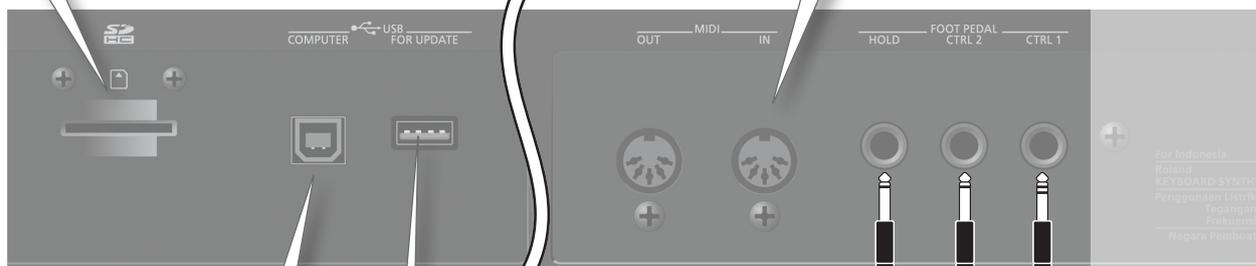
SD カード・スロット

工場出荷時には、付属の SD カードが挿された状態で SD カード・プロテクターがネジで固定されています。SD カードを取り出す場合は、ネジをはずしてください。SD カードには、本機の各種データ（設定、音色、サンプルなど）が保存されます。



MIDI 端子

MIDI 機器を接続します。



USB COMPUTER 端子

本機とパソコンを市販の USB2.0 ケーブルで接続します。



USB FOR UPDATE 端子

USB メモリーを接続して、システム・プログラムなどをアップデートすることができます。

※ 市販の USB メモリーまたはローランドが販売している USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。

FOOT PEDAL 端子

HOLD 端子

ペダル・スイッチ（別売：DP シリーズ）を接続して、ホールド・ペダルとして使います。



CTRL 1、CTRL 2 端子

エクスプレッション・ペダル（別売：EV-5）やペダル・スイッチ（別売：DP シリーズ）を接続して、いろいろなパラメーターや機能をコントロールすることができます。

※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：EV-5）をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。



※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

※ 抵抗入りの接続ケーブルを使用すると、AUDIO INPUT 端子に接続した機器の音量が小さくなる場合があります。抵抗の入っていない接続ケーブルを使用してください。

MAIN OUTPUT 端子

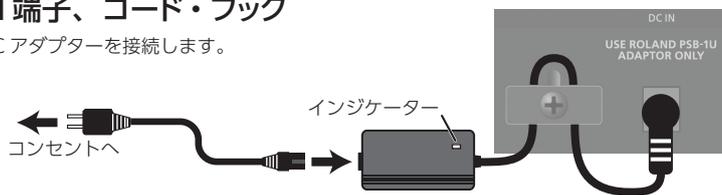
スピーカーを接続します。モノラルで出力するときには L/MONO 端子に接続してください。

※ 本機はバランス (TRS) タイプの端子を装備しており、図のように配線されています。接続する機器の配線をご確認のうえ、接続してください。



DC IN 端子、コード・フック

付属の AC アダプターを接続します。

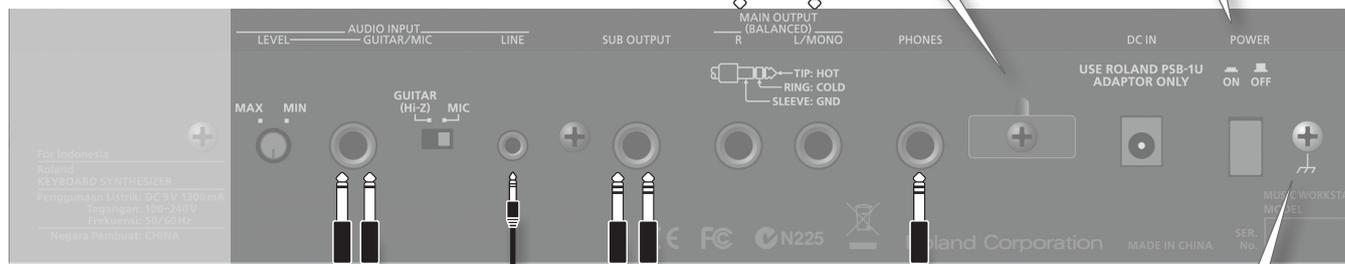


※ AC アダプターのコードは、図のようにコード・フックに固定してください。誤ってコードを引っ張ってしまっても、プラグが抜けて電源が切れてしまうことや、DC IN 端子に無理な力がかかることを防ぐことができます。

※ AC アダプターは、インジケーター (図参照) のある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。

[POWER] スイッチ

電源をオン/オフします。



AUDIO INPUT 端子



GUITAR/MIC 端子

ギターまたはマイクを接続します。

入力レベルは [LEVEL] つまみで調節します。



ギターを接続したときは「GUITAR」に、マイクを接続したときは「MIC」に設定します。

LINE 端子

デジタル・オーディオ・プレーヤーやオーディオ機器を接続します。接続には、ステレオ・ミニプラグのケーブル (市販品) を使用します。音量は接続した機器側で調節してください。



接地端子

設置条件によっては、本機や本機に接続した機器 (マイクやギターなど) の金属部に触れると、ビリビリとした感じがする場合があります。これは人体にまったく害のない極めて微量の帯電によるものですが、気になる場合は接地端子 (図参照) を使って外部のアースか大地に接地してお使いください。このとき、わずかにハム (うなり) が混じる場合があります。なお、接続方法がわからないときはローランドお客様相談センターにご相談ください。

接続してはいけないところ

- ・ 水道管 (感電の原因になります)
- ・ ガス管 (爆発や引火の原因になります)
- ・ 電話線のアースや避雷針 (落雷のとき危険です)

PHONES 端子

ヘッドホン (別売) を接続します。



SUB OUTPUT 端子

別売のヘッドホンやスピーカーを接続します。メトロノームや各パートなどを個別に設定して出力できます。バンドなどで他のメンバーとテンポを同期して演奏することができます。

※ トップ・パネルの [VOLUME] つまみでは、音量調節はできません。

本機の概要

本機は大きく分けて、「シンセサイザー」、「シーケンサー」、「サンプラー」の3つで構成されています。



シンセサイザー

11 ページ

本機には、複数のトーンを同時に鳴らすための、16個のパートが用意されています。これらを1つのセットにまとめたものを「スタジオ・セット」といいます。スタジオ・セットの各パートに1つのトーンを割り当てて使います。

通常は、パート1のトーンを使って演奏します（シングル演奏）。シーケンサーで曲を作るときは、スタジオ・セットの16パート全体を使います（マルチ・パート演奏）。さらに、パート1とパート2のトーンを使って、デュアル演奏やスプリット演奏ができます。

トーンとは？

本機で鳴らすことができる1つ1つの音色のことを「トーン」といいます。トーン・ボタンを押すと、トーンが選ばれます。

スタジオ・セット

パート1	
パート2	
パート3	
パート4	
...	
パート10	
...	
パート16	

通常はパート1のトーンで演奏

※パート10はドラム・トーン専用のトラックです。

シーケンサー

21 ページ

16トラックのMIDIシーケンサーを使って、ソング（曲）を作ることができます。スタジオ・セットの16パートのトーンを使って、そのまま16トラックで録音できます。

ソングとは？

1曲分の演奏データのことを「ソング」といいます。ソングには、演奏のデータやテンポの情報、使用したスタジオ・セットなどが記録されます。また、サンプル・バンクもソング単位で記録されます。

スタジオ・セット

パート1	
パート2	
パート3	
パート4	
...	
パート10	
...	
パート16	

ソング

トラック1
トラック2
トラック3
トラック4
...
トラック10
...
トラック16

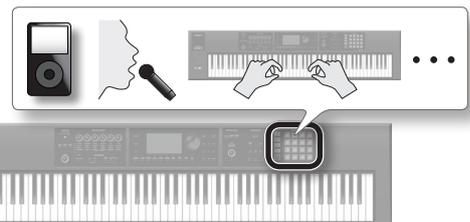
サンプラー

19 ページ

サンプラー部では、鍵盤の演奏や、オーディオ機器やマイクなどの入力音を、SDカードにオーディオ録音（サンプリング）します。SDカードにサンプリングされたサンプルは、パッドを押して再生することができます。

サンプルとは？

サンプルとは、サンプリングした音にループなどの設定を加え、16個のパッドに割り当てたものです。



詳しくは『リファレンス・マニュアル』（PDF）へ

本機の概要について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』（PDF）の『概要編』をご覧ください。

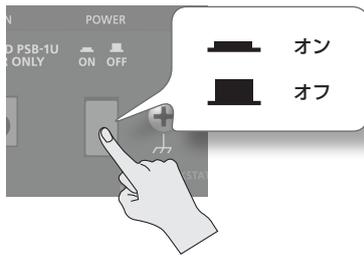
電源を入れる／切る

正しく接続したら (P.6)、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。

電源を入れる

※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

1. 本機→接続した機器の順番で、電源を入れます。



2. [VOLUME] つまみを回して、音量を調節します。



電源を切る

1. 接続した機器→本機の順番で、電源を切ります。

オート・オフ機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください。

- 電源が切れると編集時の設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください。
- 電源をオンにするときは、電源を入れ直してください。

一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (Auto Off)

1. [MENU] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで [System] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. カーソル [◀] [▶] ボタンで、[General] タブを選びます。
4. [Auto Off] にカーソルを合わせ、ダイヤルで設定値を変更します。

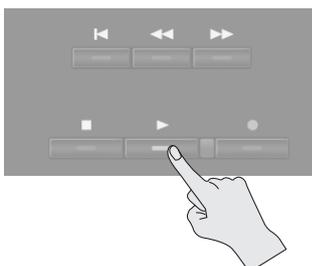
設定値	説明
OFF	Auto Off 機能を使用しません。
30 [min]	演奏や操作をやめてから 30 分後に電源が切れます。
240 [min] (工場出荷時)	演奏や操作をやめてから 4 時間後に電源が切れます。

5. [6] (System Write) ボタンを押します。
設定は本体に保存され、次回電源オン時は保存された設定になります。

デモ・ソングを再生する

付属の SD カードには、デモ・ソングが収録されています。

1. [▶] ボタンを押します。



デモ・ソングの再生が始まります。

2. [■] ボタンを押すと、停止します。

メモ

デモ・ソングの選びかたについて、詳しくは『ソングを選ぶ／再生する』(P.21) をご覧ください。

※ デモ・ソングを個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。

基本操作

本機を操作するための、ボタンやダイヤルの基本的な使いかたを紹介します。

カーソル・ボタン

1つの画面やウィンドウには、複数のパラメーター（設定項目）や選択項目が表示されています。パラメーターの設定を変更する場合は、その対象となるパラメーターの値にカーソルを移動します。

カーソル・ボタンを押し続けると、カーソルは連続して移動します。

ある方向のカーソル・ボタンを押しながら反対方向のカーソル・ボタンを押すと、カーソルの移動が速くなります。



値を変更する

カーソルで反転表示された値を変更するには、ダイヤルまたは [DEC] [INC] ボタンを使います。

また、[SHIFT] ボタンを押しながら操作すると、値の変化が大きくなります。

ダイヤル

ダイヤルを右に回すと値が大きくなり、左に回すと小さくなります。

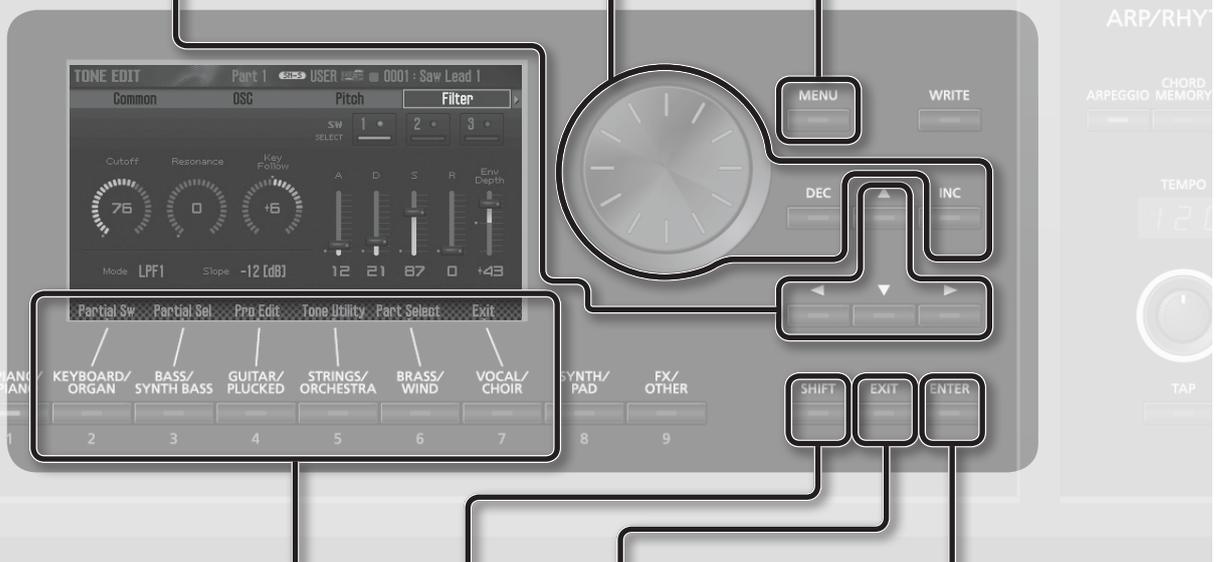
[DEC] [INC] ボタン

値を大きくするときは [INC] ボタンを押し、小さくするときは [DEC] ボタンを押します。

片方のボタンを押しながら、もう一方のボタンを押すと値が速く変わります。

[MENU] ボタン

本機全体の設定など、各機能の詳細設定をします (P.26)。



ファンクション・ボタン

通常はトーン・ボタンとしてはたつきませんが、画面によっては、機能を実行するファンクション・ボタン ([2] ~ [7] ボタン) としてはたつき。画面の下部に機能名が表示されます。

また、[SHIFT] ボタンを押すと異なる機能が表示される画面もあります。

[SHIFT] ボタン

[SHIFT] ボタンを押しながら他のボタンを押すと、押したボタンに関する設定画面に移動することができます (ショート・カット)。

[ENTER] ボタン

値の確定や操作の実行に使います。

メモ

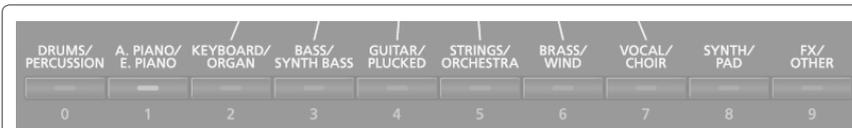
トーンやパラメーターにカーソルを合わせて [ENTER] ボタンを押すと、リストを表示して設定を変更できます。

[EXIT] ボタン

元の画面に戻ったり、開いているウィンドウを閉じたりします。

シンセサイザー編 (演奏する)

トーンを選ぶ



カテゴリ・グループ	説明
DRUMS/PERCUSSION	リズム楽器
A. PIANO/E. PIANO	ピアノ
KEYBOARD/ORGAN	キーボード/オルガン
BASS/SYNTH BASS	ベース
GUITAR/PLUCKED	ギター
STRINGS/ORCHESTRA	ストリングス/オーケストラ
BRASS/WIND	金管/木管楽器
VOCAL/CHOIR	ボーカル/クワイヤ
SYNTH/PAD	シンセサイザー/パッド
FX/OTHER	効果音/その他

1. トーン・ボタンを押します。
2. ダイヤルを回して、好みのトーンを選びます。

鍵盤を弾いてみましょう。

メモ

- [PREVIEW] ボタンを押している間、選ばれたトーンに最適なフレーズを本機がデモ演奏します。
- [ENTER] ボタンを押すと、TONE LIST 画面が表示されます。リストからトーンを選ぶことができます。

トーンの種類について

本機のトーンには、SuperNATURAL トーンと PCM トーンがあります。

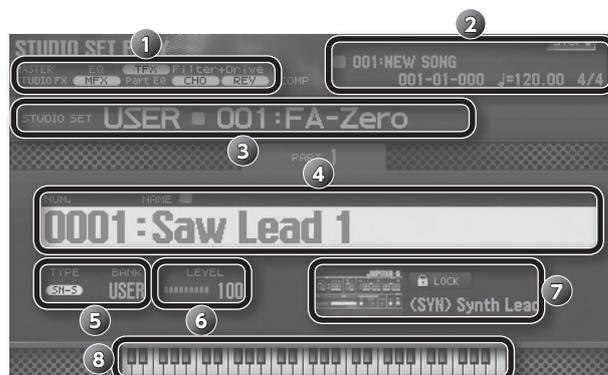
SuperNATURAL トーン

タイプ	説明
SuperNATURAL アコースティック・トーン (SH-A)	アコースティック楽器の音色を再現するだけでなく、プレーヤーの演奏フレーズ、和音とメロディー演奏の違いなど、アコースティック楽器特有の表現力を得ることができます。
SuperNATURAL シンセ・トーン (SH-S)	1つのトーンに「OSC (オシレーター)」、[FILTER (フィルター)]「AMP (アンプ)」を3系統搭載しています。強力なシンセ・サウンドを1トーンで表現します。
SuperNATURAL ドラム・キット (SH-D)	弱打から強打までの自然な音色変化、連打に対するナチュラルな反応などを追求したドラム音色です。

PCM トーン

タイプ	説明
PCM シンセ・トーン (PCMS)	過去のローランド・シンセサイザーで「パッチ」と呼ばれていた音色を、本機用にチューニングしたものです。1つの PCM シンセ・トーンに、4つまでのパッチ (ウェーブ) を組み合わせることができます。
PCM ドラム・キット (PCMD)	過去のローランド・シンセサイザーで「リズム・セット」と呼ばれていた音色を、本機用にチューニングしたものです。ドラム・キットは、押さえる鍵盤 (ノート・ナンバー) によって異なる打楽器音が鳴るように、複数の打楽器音を集めたグループです。

画面について



番号	説明
①	エフェクトの情報または状態
②	ソングの情報
③	スタジオ・セットのバンク、ナンバー、ネーム
④	トーン・ナンバー、ネーム
⑤	トーンの種類、バンク
⑥	トーン・レベル
⑦	カテゴリ・ネーム
⑧	キーボードの状態 (発音域、デュアル、スプリットなど)

保存しましょう

選んだトーンは一時的なものです。電源を切ったり、他のスタジオ・セットを選んだりすると、トーンを選択した状態は消えてしまいます。トーンを選択を記憶させておきたいときは、スタジオ・セットを保存してください (P.18)。

トーンを追加することができます

音色ライブラリー・サイト Axial にある多彩な種類のトーンを、本機に追加することができます。詳しくは、Axial サイトをご覧ください。
<http://axial.roland.com/>



English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

演奏の設定をする

鍵域を半音単位で高く／低くする （トランスポーズ）

1. [TRANSPPOSE] ボタンを押しながら、[-] ボタンまたは [+] ボタンを押します。

メモ

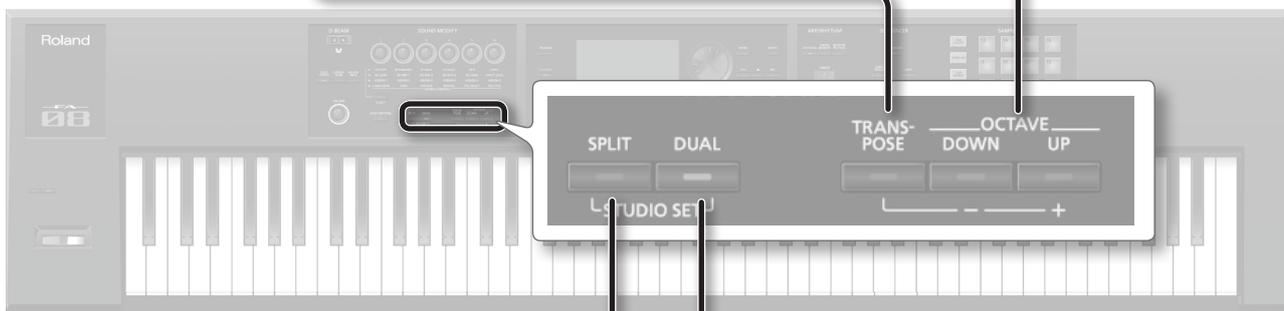
-5 ~ +6 半音まで設定できます。

鍵域をオクターブ高く／低くする （オクターブ）

1. OCTAVE [DOWN] ボタンまたは [UP] ボタンを押します。

メモ

- 最大±3 オクターブまで設定できます。
- 元に戻すときは、OCTAVE [DOWN] ボタンと [UP] ボタンを同時に押します。



右手と左手で違うトーンを鳴らす（スプリット）

1. [SPLIT] ボタンを押して、点灯させます。

スプリット画面が表示されます。
スプリット・ポイントを境に、鍵盤右手側はアッパー・トーン、鍵盤左手側はローワー・トーンが鳴ります。



2. スプリットを解除するときは、[SPLIT] ボタンを押して、ボタンを消灯させます。

トーンを変更する

1. 変更するトーンにカーソルを合わせ、ダイヤルでトーンを変更します。

メモ

トーン・ボタンを押して選ぶこともできます。

音域の分かれる位置を変える（スプリット・ポイント）

1. [SPLIT] ボタンを押しながらスプリット・ポイントにする鍵を押します。

押した鍵がスプリット・ポイントになります。
スプリット・ポイントの鍵は、アッパー側に含まれます。

2つのトーンを重ねて鳴らす（デュアル）

1. [DUAL] ボタンを押して、点灯させます。

デュアル画面が表示されます。
アッパー・トーン、ローワー・トーンが重なって鳴ります。



2. デュアルを解除するときは、[DUAL] ボタンを押して、ボタンを消灯させます。

トーンを変更する

1. 変更するトーンにカーソルを合わせ、ダイヤルでトーンを変更します。

メモ

トーン・ボタンを押して選ぶこともできます。

演奏の機能を使う

アルペジオ演奏をする

アルペジオは、押さえたキーにしたがって、自動的にアルペジオ演奏する機能です。

1. [ARPEGGIO] ボタンを押して、点灯させます。
2. 鍵盤で和音を弾きます。
押さえた和音の構成音にしたがって、アルペジオ演奏が始まります。
3. オフにするときは、もう一度 [ARPEGGIO] ボタンを押して、ボタンを消灯させます。

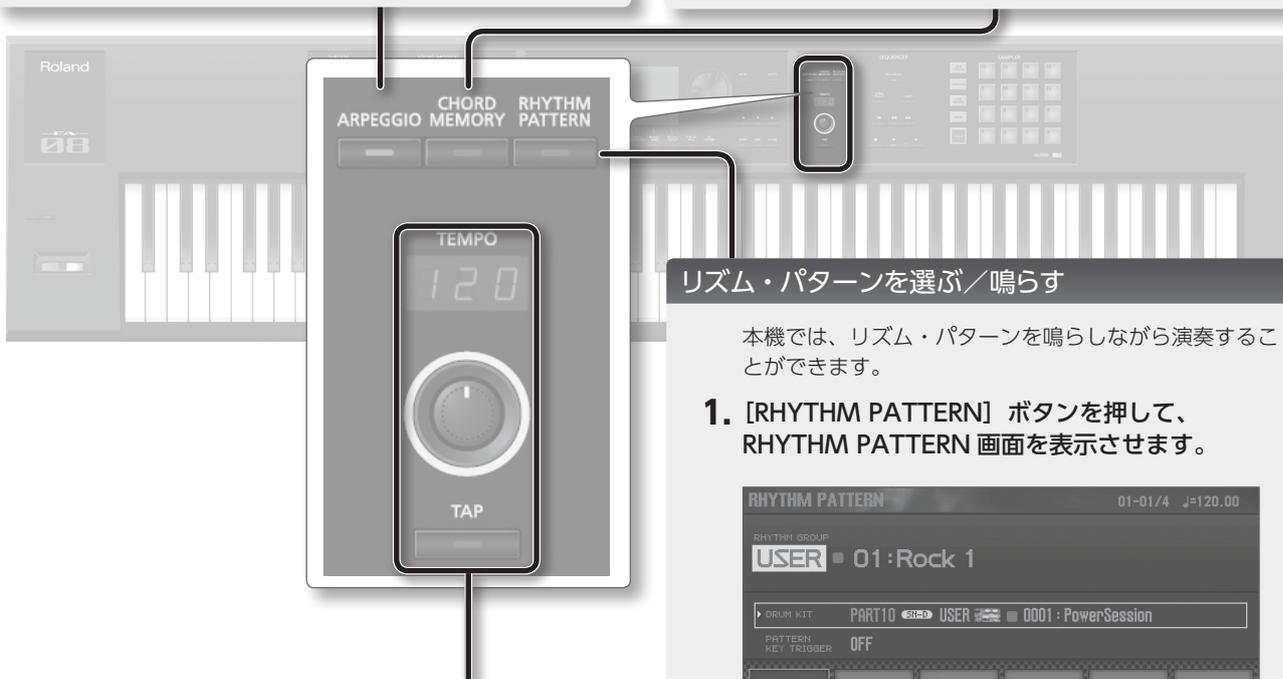
メモ

コード・メモリー機能と一緒に使うと、指一本で多彩なアルペジオ・サウンドを簡単に演奏できます。

コード演奏をする (コード・メモリー)

コード・メモリーは、鍵盤のキーを1つ弾くだけで、あらかじめ登録されているコード・フォームにしたがって和音を鳴らすことができる機能です。

1. [CHORD MEMORY] ボタンを押して、点灯させます。
2. 鍵盤を弾きます。
そのとき選ばれているコード・フォームにしたがって、和音が鳴ります。
3. オフにするときは、もう一度 [CHORD MEMORY] ボタンを押して消灯させます



リズム・パターンを選ぶ/鳴らす

本機では、リズム・パターンを鳴らしながら演奏することができます。

1. [RHYTHM PATTERN] ボタンを押して、RHYTHM PATTERN 画面を表示させます。



2. リズム・グループとドラム・キットを選びます。
 1. カーソルを [RHYTHM GROUP] または [DRUM KIT] に合わせます。
 2. ダイヤルを回して、ドラム・キットまたはリズム・グループを選びます。
3. [2] (Intro) ~ [7] (Ending) ボタンを押して、鳴らすリズム・パターンを選びます。

リズム・パターンが鳴ります。

メモ

停止するときは、鳴っているリズム・パターンのボタンを押します。

テンポを変更する

アルペジオやリズム・パターンのテンポを変更することができます。

1. [TEMPO] つまみを回します。

メモ

- [TAP] ボタンを押すタイミングでテンポを設定することができます (タップ・テンポ)。設定したいテンポの4分音符のタイミングで3回以上押してください。
- [TAP] ボタンを押すと、Tempo ウィンドウが表示されます。この状態で [SHIFT] ボタンを押しながらダイヤルを回すと、小数点以下の値を設定することができます。

リアルタイムに音を変化させる

手をかざして音色を変化させる（D-BEAM コントローラー）

1. ボタンを押して D-BEAM コントローラーの効果を選びます。

ボタン	説明
[SOLO SYNTH]	D-BEAM コントローラーにかざした手の動きにしたがって、モノフォニック・シンセサイザーを鳴らすことができます。
[EXPRESSION]	D-BEAM コントローラーでボリュームをコントロールできます。
[ASSIGNABLE]	いろいろなパラメーターや機能を割り当てることができます。各トーンに最適な効果がかかります。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、機能を割り当てる画面が表示されます。 [ASSIGNABLE] ボタンを押しながら、SOUND MODIFY つまみを回したりパッドを押したりすることで、対応するパラメーターを割り当てることもできます。



2. 鍵盤を弾きながら、D-BEAM コントローラーに手をかざします。

押したボタンに応じた効果がかかります。



音の高さをリアルタイムに変化させる（ピッチ・ベンド）

1. ピッチ・ベンド/モジュレーションレバーを左右に動かします。



鍵盤を弾きながらレバーを左に倒すとピッチ（音程）が下がり、右に倒すとピッチが上がります。

ビブラートやダイナミクスをつける（モジュレーション）

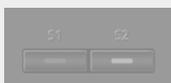
1. ピッチ・ベンド/モジュレーションレバーを向こう側に倒します。



レバーを向こう側に倒すと、ビブラートまたはダイナミクスがつかめます。

割り当てられた機能で音色を変化させる（[S1] [S2] ボタン）

1. 鍵盤を弾きながら、[S1] [S2] ボタンを押します。



[S1] [S2] ボタンに割り当てられた機能にしたがって、音色が変化します。

SOUND MODIFY つまみで音色を変化させる

SOUND MODIFY つまみを使って、リアルタイムに音色をコントロールすることができます。4つのグループに各6種類、合計24種類のパラメーターをコントロールすることができます。

コントロールするグループ（点灯）



1. [SELECT] ボタンを押して、コントロールするパラメーターのグループを選びます。
2. [1] ~ [6] つまみを回します。

回したつまみに応じて、音色が変化します。

パートの音質を変える（CUTOFF、RESONANCE）

フィルターは、音の鳴りかたや特徴を決めているパラメーターのひとつです。

音の成分を周波数によって削ったり強調したりすることで音質を変えることができます。

パートの音量変化のしかたを変える（ATTACK、RELEASE）

鍵盤を押さえてから、音が立ち上がるまでの時間や、鍵盤を離してから、音が消えるまでの時間を変えることができます。

パートの音の定位を変える（PAN）

パートのパン（音の定位）を変えることができます。

パートの音量を調節する（LEVEL）

パートの音量を調節することができます。

音の高域／中域／低域のレベルを変える（EQ）

全体の音にかかるイコライザー（EQ）を調節します。

入力音量を調節する（INPUT LEVEL）

AUDIO INPUT 端子の入力音量を調節することができます。

機能を割り当てて使う（ASSIGN）

ASSIGN1 ~ 6 には、いろいろなパラメーターを割り当てることができます。

効果的にエフェクトをかける（GLOBAL CONTROL）

本機では、「グローバル・コントロール」により、効果的にエフェクトをかけることができます。

「グローバル・コントロール」とは、つまみひとつで、エフェクトを構成する複数のパラメーターを最適化することができる技術です。

つまみ	説明
[1] (COMPRESSOR)	つまみを左に回しきると、コンプレッサー効果がかかっている状態になります。つまみを右に回すほど、全体の音量のバラツキが抑えられ、粒立ちのよい音になります。
[2] (TONE)	つまみを左に回すほど中域が強調され、音抜けがよくなります。バンド演奏に適しています。右に回すほど低域と高域が強調され、派手な音になります。ソロ演奏に適しています。
[3] (CHORUS)	つまみを左に回しきると、効果がかかっている状態になります。つまみを右に回すほど、コーラスが深くかかります。
[4] (REVERB)	つまみを左に回しきると、効果がかかっている状態になります。つまみを右に回すほど、リバーブが深くかかります。
[5] (TFX SELECT)	トータル・エフェクトのタイプを選びます。トータル・エフェクトは、29種類の中から1つのエフェクトを選んで、効果をかけることができます。
[6] (TFX CTRL)	選んだトータル・エフェクトのパラメーターをコントロールします。

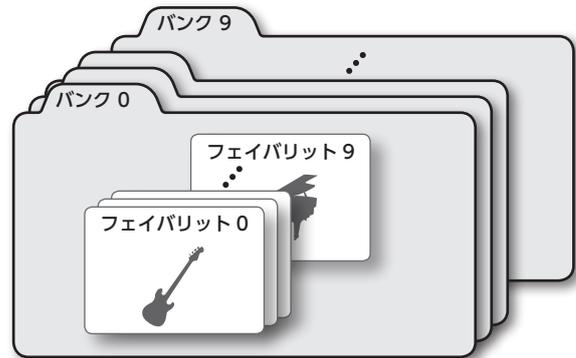
メモ

- SOUND MODIFY つまみの使いかたについて、詳しくは『リファレンス・マニュアル』（PDF）の『SOUND MODIFY つまみで音色を変化させる』をご覧ください。
- トータル・エフェクトのパラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

お気に入りの音色を登録／呼び出す（フェイバリット）

ライブ演奏で頻繁に使う音色（トーンまたはスタジオ・セット）を「フェイバリット」に登録しておく、即座に呼び出して使うことができます。

1つのバンクに、音色を10個登録することができます。さらにこのバンクを10個（0～9）作成することができます。たとえば、ライブで演奏する曲の音色を、曲の流れにしたがって順番に登録しておく、といった使いかたができます。



音色をフェイバリットに登録する

音色をフェイバリットに登録します。

1. 登録したい音色（トーンまたはスタジオ・セット）を選びます。
2. [FAVORITE] ボタンを押して、点灯させます。



3. 登録するバンクを選びます。



1. FAVORITE [BANK] ボタンを押します。
2. バンク・ナンバーに対応するボタン（[0]～[9] ボタン）を押します。
4. [FAVORITE] ボタンを押しながら、登録先のナンバーに対応するボタン（[0]～[9] ボタン）を押します。音色が登録されます。

メモ

フェイバリットは、演奏の状態によって、登録される内容が異なります。

演奏	登録される内容
シングル演奏	パート1のトーン
デュアル演奏	スタジオ・セット
スプリット演奏	
マルチ・パート演奏	

フェイバリットを呼び出す

[FAVORITE] ボタンをオンにしておく、[0]～[9] ボタンを押すことで、連続してフェイバリットを切り替えて演奏できます。

1. [FAVORITE] ボタンを押して、点灯させます。
[0]～[9] ボタンで、フェイバリットを選べるようになります。
2. 呼び出すバンクを選びます。
 1. FAVORITE [BANK] ボタンを押します。
 2. バンク・ナンバーに対応するボタン（[0]～[9] ボタン）を押します。

メモ

フェイバリット・バンクは、[FAVORITE] ボタンがオフでも変更できます。

3. [0]～[9] ボタンでフェイバリットを選びます。
フェイバリットが呼び出されます。

フェイバリットを削除する

登録したフェイバリットを削除します。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [FAVORITE] ボタンを押します。
FAVORITE LIST 画面が表示されます。



2. カーソル [◀] [▶] ボタンで、バンクを選びます。
3. カーソル [▲] [▼] ボタンまたは [DEC] [INC] ボタンで、フェイバリットを選びます。
4. [SHIFT] ボタンを押しながら [2] (Remove) ボタンを押します。
フェイバリットが削除されます。

シンセサイザー編 (エディットする)

スタジオ・セットをエディットする

スタジオ・セットをエディットします。

スタジオ・セット全体の設定をする

スタジオ・セット全体の設定をします。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [5] (Studio Common) ボタンを押します。

STUDIO SET COMMON 画面が表示されます。



メモ

メニューから STUDIO SET COMMON 画面に入ること
もできます (P.26)。

2. カーソル・ボタンで項目を選び、ダイヤルで設定を変更します。

[SHIFT] ボタンを押しながらカーソル [◀] [▶] ボタンを押すと、タブを切り替えることができます。

ご注意!

エディットしたスタジオ・セットは一時的なものです。電源を切ったり、他のスタジオ・セットを選んだりすると消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、スタジオ・セットを保存してください (P.18)。

メモ

パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

パートの設定を変更する

スタジオ・セットは 16 パートあり、パートごとに音量 (Level)、イコライザー (EQ)、キー・レンジ (KBD) などの設定ができます。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [4] (Part View) ボタンを押します。

PART VIEW 画面が表示されます。



メモ

メニューから PART VIEW 画面に入ること
もできます (P.26)。

2. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで設定値を変更します。

[SHIFT] ボタンを押しながらカーソル [◀] [▶] ボタンを押すと、タブを切り替えることができます。

トーンをエディットする

トーンをエディットします。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [2] (Tone Edit) ボタンを押します。

TONE EDIT 画面が表示されます。



メモ

- ・トーンの種類によって、TONE EDIT 画面が異なります。
- ・メニューから TONE EDIT 画面に入ること
もできます (P.26)。

2. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで設定値を変更します。

[SHIFT] ボタンを押しながらカーソル [◀] [▶] ボタンを押すと、タブを切り替えることができます。

ご注意!

エディットしたトーンは一時的なものです。電源を切ったり、他のトーンを選んだりすると消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、トーンを保存してください (P.18)。

メモ

トーン・パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

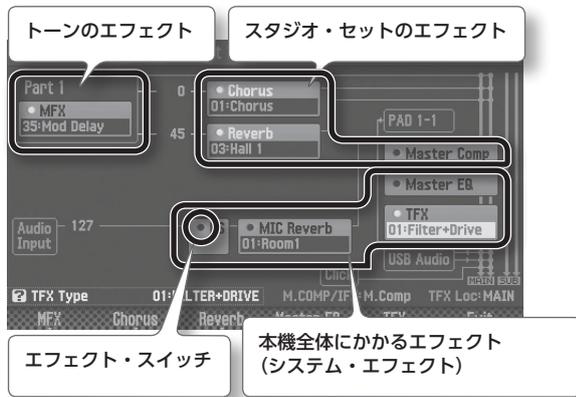
Nederlands

エフェクトをエディットする

エフェクトをエディットします。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [3] (Effects Edit) ボタンを押します。

EFFECTS EDIT 画面が表示されます。



メモ

メニューから EFFECTS EDIT 画面に入ることできます (P.26)。

エフェクトをオン/オフする

1. カーソル・ボタンでエフェクト・スイッチを選び、ダイヤルでオン/オフを切り替えます。

エフェクトのパラメーターを設定する

1. ファンクション・ボタンを押して、各エフェクトの設定画面に入ります。
2. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで設定値を変更します。

EFFECTS EDIT 画面に戻るときは、[EXIT] ボタンを押します。

ご注意!

エディットした各種エフェクトは一時的なものです。電源を切ったり、他のスタジオ・セット、トーンを選んだりすると消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、トーン、スタジオ・セット、またはシステム設定をそれぞれ保存してください。

メモ

パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

システム・エフェクトを保存する

エディットしたシステム・エフェクトは、電源を切ると消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、以下の手順で保存してください。

1. システム・エフェクトの設定画面で、[6] (System Write) ボタンを押します。

スタジオ・セット、トーン、ソングを保存する

エディットしたスタジオ・セットやトーン、録音したソングは一時的なものです。電源を切ったり、他のスタジオ・セット、トーン、またはソングを選んだりすると消えてしまいます。エディットした内容や録音したソングを残したい場合は、保存操作をしてください。保存したスタジオ・セットやトーンは本機のメモリーに、ソングはSDカードに保存されます。

ご注意!

- ・保存操作をすると、保存先にあったデータは上書きされます。
- ・ソングは、演奏データ以外にスタジオ・セットの情報も記録します。そのため、ソングで使っているスタジオ・セットやトーンをエディットすると、ソングの鳴りかたが変わってしまいます。

1. [WRITE] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで保存する項目を選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. [2] (Rename) ボタンを押して、名前を付けます。

操作子	説明
ダイヤルまたは [DEC] [INC]	入力する文字を指定します。
[◀] [▶]	カーソルを移動します。
[▲] [▼]	アルファベットの大きい文字、小さい文字を切り替えます。
[4] (Delete)	カーソル位置の文字を削除します。
[5] (Insert)	カーソル位置にスペース (空白) を挿入します。
[6] (Cancel)	入力を途中で止めて、名前を付ける画面を抜けます。
[7] (OK)	名前を確定します。

4. [7] (OK) ボタンを押します。

5. ダイヤルまたは [DEC] [INC] ボタンで、保存先を選びます。

6. [7] (Write) ボタンを押します。

確認のメッセージが表示されます。中止するときは [7] (Cancel) ボタンを押します。

7. [6] (OK) ボタンを押します。

データが保存されます。

詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) へ

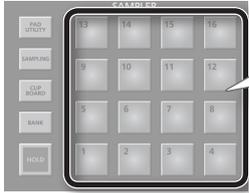
データは本機のメモリーまたはSDカードに保存されません。本機のメモリー構成について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) の『概要編』をご覧ください。

サンプラー編 (録音する)

サンプルを再生する

本機では、パッド [1] ~ [16] に割り当てられたサンプルを再生することができます。

1. パッド [1] ~ [16] を押します。



サンプルを再生している間、そのパッドが点滅します。複数のパッドを同時に押して再生することもできます。

サンプルが再生されます。

サンプルを再生し続ける (ホールド)

1. パッドを押している間に [HOLD] ボタンを押します。



パッドから手を離してもサンプルの再生が続きます。サンプルを停止するときは、もう一度パッドを押します。

バンクを切り替える

バンクとは、パッドに割り当てた 16 個のサンプル・セットのことです。本機には 1 ~ 4 の 4 個のバンクがあります。

1. [BANK] ボタンを押します。



2. パッド [1] ~ [4] を押して、バンクを選びます。

サンプルを移動/コピーする

サンプルを別のパッドに移動したりコピーしたりすることができます。

サンプルを移動する

1. 移動したいサンプルがあるパッドを押しながら、[CLIP BOARD] ボタンを押します。



2. [CLIP BOARD] ボタンを押しながら、移動先のパッドを押します。

サンプルが移動します。

※ 移動先のパッドにサンプルがある場合は、「Overwrite OK?」とメッセージが出ます。上書きする場合は [ENTER] ボタン、キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押します。

サンプルをコピーする

1. コピーしたいサンプルがあるパッドと [SHIFT] ボタンを押しながら、[CLIP BOARD] ボタンを押します。

2. [CLIP BOARD] ボタンを押しながら、コピー先のパッドを押します。

サンプルがコピーされます。

※ コピー先のパッドにサンプルがある場合は、「Overwrite OK?」とメッセージが出ます。上書きする場合は [ENTER] ボタン、キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押します。

パッドに便利な機能を割り当てる (PAD UTILITY)

サンプルの再生以外に、テンキーとして使ったり、パートをミュートしたりすることができます。

1. [PAD UTILITY] ボタンを押します。



2. [6] (Pad Mode) ボタンを押します。

3. パッド [1] ~ [7] を押して、機能を選びます。

選んだ機能に応じて、設定画面が表示されます。

パッド	機能	説明
[1]	SAMPLE PAD	サンプルを再生します。
[2]	PART SELECT	パートを選びます。
[3]	PART MUTE	パートのミュートをオン/オフをします。
[4]	PART SOLO	パートのソロをオン/オフをします。
[5]	NUMERIC	パッドがテンキーとして動作します。
[6]	PARTIAL SW/SEL	パースシャルの選択やオン/オフをします。
[7]	KBD SW	キーボード・スイッチをオン/オフをします。

メモ

各機能について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) の『パッドを使う』をご覧ください。

音が止まらなくなったときは!!

[HOLD] ボタンを素早く 4 回連続で押してください。パッドで鳴らしているすべての音を止めることができます。

サンプリングする

本機は、以下の音をサンプリングすることができます。サンプリングしたサンプルは、パッドで再生できます。

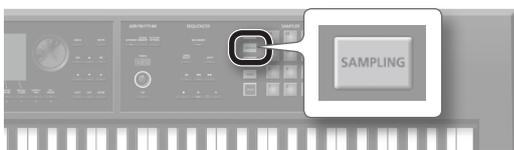
- ・ 鍵盤の演奏
- ・ AUDIO INPUT 端子からの入力音 (オーディオ機器、マイク、ギター)

1. AUDIO INPUT 端子にサンプリングする機器 (オーディオ機器やマイク) を接続します。

メモ

接続について、詳しくは『リア・パネル (機器を接続する)』(P.6) をご覧ください。

2. [SAMPLING] ボタンを押して、点灯させます。



サンプルが入っていないパッドが点滅します。

ご注意!

サンプルの入っているパッドでサンプリングすると、入っていたサンプルは上書きされます。

3. サンプリング先のパッドを押して、パッドを点灯させます。

SAMPLING STANDBY 画面が表示されます。

4. ダイヤルを回して、サンプリング・モードを選びます。

パラメーター	説明
KBD+INPUT	鍵盤と AUDIO INPUT 端子からの入力音をサンプリングします。
KBD	鍵盤の演奏をサンプリングします。
INPUT	AUDIO INPUT 端子からの入力音をサンプリングします。

5. サンプリングする音量を調節します。

レベル・メーターが振り切れない範囲で、なるべく大きくなるように音量を調節します。

サンプリングする機器	説明
オーディオ機器	オーディオ機器側で調節します。
マイクまたはギター	リア・パネルの [LEVEL] つまみで調節します。



6. サンプリングの設定をします。

カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで設定値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
STEREO SW	MONO、STEREO	マイクやギターなど、モノラルでサンプリングするときは「MONO」に設定します。オーディオ機器など、ステレオでサンプリングするときは「STEREO」に設定します。
AUTO TRIGGER LEVEL	0 ~ 15	Auto Trig を「ON」に設定すると、ここで設定した以上の信号が入力されたらサンプリングが始まります。
Auto Trig	OFF、ON	「ON」にすると、AUTO TRIGGER LEVEL の設定以上の信号が入力されたらサンプリングが始まります。「OFF」に設定すると、[7] (Start) ボタンを押したらずちにサンプリングが始まります。

7. 本機に接続した機器を鳴らし、サンプリングを開始するタイミングで [7] (Start) ボタンを押します。

サンプリング中は「NOW SAMPLING!」と表示されます。

手順 6 で Auto Trig を「OFF」に設定しているとき

[7] (Start) ボタンを押すと、サンプリングが始まります。本機に接続した機器を鳴らします。

手順 6 で Auto Trig を「ON」に設定しているとき

本機に接続した機器を鳴らして、AUTO TRIGGER LEVEL で設定した以上の信号が入力されると、サンプリングが始まります。

8. サンプリングを終了するタイミングで、[6] (Stop) ボタンを押します。

サンプリングが停止し、サンプリング先のパッドへ保存されます。

メモ

- ・ サンプルのデータは、SD カードに保存されます。
- ・ パソコンの WAV、AIFF、MP3 のデータをサンプルとして読み込むことができます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) の『サンプルをエディットする』をご覧ください。

サンプルを削除する (Delete)

サンプルを削除します。

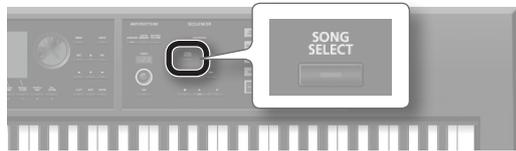
1. [PAD UTILITY] ボタンを押します。
2. パッドを押して、削除するサンプルを選びます。
3. [4] (Sample Delete) ボタンを押します。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは [7] (Cancel) ボタンを押します。
4. [6] (OK) ボタンを押します。
サンプルが削除されます。

シーケンサー編 (曲を作る)

ソングを選ぶ／再生する

ソングを選んで再生します。

1. [SONG SELECT] ボタンを押します。



SONG SELECT 画面が表示されます。



2. ダイヤルを回して、ソングを選びます。
3. [7] (Load) ボタンを押します。
確認のメッセージが表示されます。
4. [6] (OK) ボタンを押します。
ソングが選ばれます。
5. [▶] ボタンを押します。
ソングの再生が始まります。

ボタンのはたらき

ボタン	説明
[◀]	ソング・ポジションを先頭に戻します。
[◀◀]	ソングを巻き戻しします。
[▶▶]	ソングを早送りします。
[■]	ソングを停止します。

ソングをループ再生する

設定した区間で、ソングを繰り返し再生することができます (ループ再生)。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [LOOP] ボタンを押します。



Loop ウィンドウが表示されます。



2. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、ダイヤルで設定値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Start Point	001 ~	繰り返しの開始小節を設定します。
End Point	002 ~	繰り返しの終了小節を設定します。 ここで指定した位置は、繰り返し区間には含まれません。

ボタンを使って、以下の操作ができます。

ボタン	説明
[4] (Set Start)	ソングの現在の小節が開始小節として設定されます。
[5] (Set End)	ソングの現在の小節が終了小節として設定されます。

3. [EXIT] ボタンを押します。
4. [LOOP] ボタンを押して、点灯させます。
5. ソングを再生します。
設定した区間で繰り返し再生されます。
6. ループ再生を解除するときは、もう一度 [LOOP] ボタンを押して、ボタンを消灯させます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

演奏を録音する (リアルタイム・レコーディング)

リアルタイム・レコーディングは、鍵盤での演奏やコントローラーの操作をそのまま録音する方法です。今回は、2つのトラックを使ってリアルタイム・レコーディングする方法について説明します。

録音の準備をする

1. 空きソングを選びます (P.21)。

本機は起動時にソングの001番が読み込まれるようになっています。新しくソングを録音するときは、空きソング (INIT SONG) を選びましょう。

2. 演奏するトーンを選びます (P.11)。

3. スタジオ・セットを保存します (P.18)。

録音時に選んだトーンを記憶させるため、スタジオ・セットを保存しておきます。

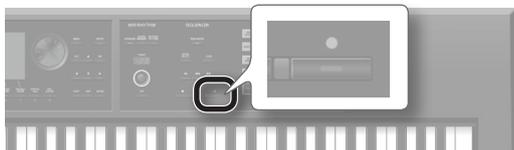
※ 録音時のスタジオ・セットを保存しておかないと、保存前のトーンで再生されます。

4. [TEMPO] つまみを回して、ソングのテンポを設定します。

録音する

本機は [●] ボタンを押すだけで、すぐに録音待機状態にすることができます。シングル演奏 (パート1のトーン) で録音した内容は、トラック1に録音されます。

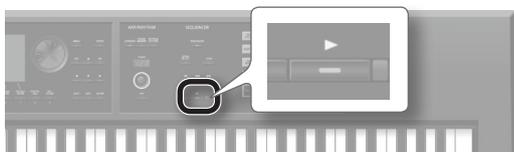
1. [●] ボタンを押します。



[●] ボタンが点滅し、録音待機状態になります。Realtime Rec Standby ウィンドウが表示されます。



2. [▶] ボタンを押します。



1小節のカウントのあとで録音が始まります。

3. 鍵盤を弾きます。

4. 録音が終わったら、[■] ボタンを押します。



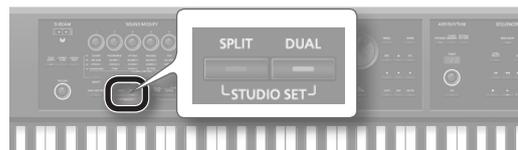
[●] ボタンが消灯し、録音を終了します。

別のトラックに録音する

別のトラックにも演奏を録音して、音を重ねてみましょう。今回は、トラック2に録音する方法について説明します。

トラック2で演奏するトーンを選ぶ

1. [DUAL] ボタンと [SPLIT] ボタンを同時に押して、マルチ・パート演奏の状態にします。



マルチ・パート演奏の画面が表示されます。

メモ

もう一度 [DUAL] ボタンと [SPLIT] ボタンを同時に押すと、シングル演奏に戻ります。

2. カーソルをパート2のトーンに合わせ、ダイヤルでトーンを選びます。



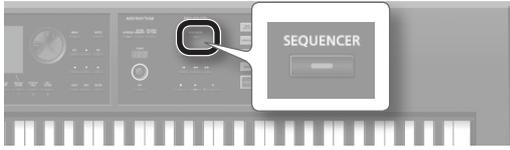
3. スタジオ・セットを保存します (P.18)。

録音時に選んだトーンを記憶させるため、スタジオ・セットを保存しておきます。

※ 録音時のスタジオ・セットを保存しておかないと、保存前のトーンで再生されます。

トラック 2 に録音する

1. [SEQUENCER] ボタンを押します。



SEQUENCER 画面が表示されます。



『トラック 2 で演奏するトーンを選ぶ』(P.22) の手順 2 でパート 2 のトーンを選んでいるため、トラック 2 が選ばれています。

2. [◀] ボタンを押します。
ソング・ポジションを曲の先頭へ移動します。
3. [●] ボタンを押します。
[●] ボタンが点滅し、録音待機状態になります。
Realtime Rec Standby ウィンドウが表示されます。
4. [▶] ボタンを押します。
1 小節のカウンターのあとで録音が始まります。
5. 鍵盤を弾きます。
6. 録音が終わったら、[■] ボタンを押します。
[●] ボタンが消灯し、録音を終了します。

録音や編集を取り消す (アンドゥ/リドゥ)

録音や編集の操作を取り消して、1 つ前の状態に戻すことができます (アンドゥ)。また、アンドゥ操作を取り消すことができます (リドゥ)。

1 つ前の状態に戻す (アンドゥ)

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [6] (Undo) ボタンを押します。
アンドゥが実行され、直前の録音や編集が取り消されます。

アンドゥを取り消す (リドゥ)

1. [SHIFT] ボタンを押しながら [6] (Redo) ボタンを押します。
リドゥが実行され、直前のアンドゥ操作が取り消されます。

再生する

1. [◀] ボタンを押します。
ソング・ポジションを曲の先頭へ移動します。
2. [▶] ボタンを押します。
曲の再生が始まります。

ソングを保存する

録音したソングは一時的なものです。電源を切ったり、他のソングを選んだりすると消えてしまいます。
録音したソングを残したい場合は、SD カードにソングを保存してください (P.18)。

ソングを削除する

SD カードに保存したソングを削除します。

1. [SONG SELECT] ボタンを押します。
2. ダイヤルを回して、削除するソングを選びます。
3. [2] (Delete Song) ボタンを押します。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは [7] (Cancel) ボタンを押します。
4. [6] (OK) ボタンを押します。
ソングが削除されます。

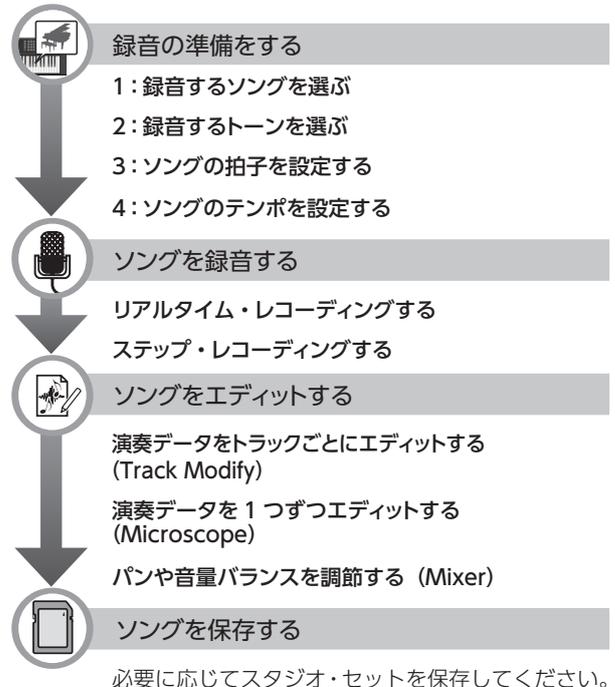
こんなことができます

本機のシーケンサーは、通常のリアルタイム・レコーディング以外に、以下のことができます。

- ループ録音でノンストップにトラックを切り替えながらのリアルタイム・レコーディング
- 音符や休符を 1 つずつ打ち込む (ステップ・レコーディング)
- 録音した演奏データのエディット

録音の流れ

本機で新しくソングを録音するときは、以下の流れで録音します。



メモ

シーケンサーについて、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) の『シーケンサー編 (曲を作る)』をご覧ください。

MIDIトラックを DAW ソフトウェアに取り込む

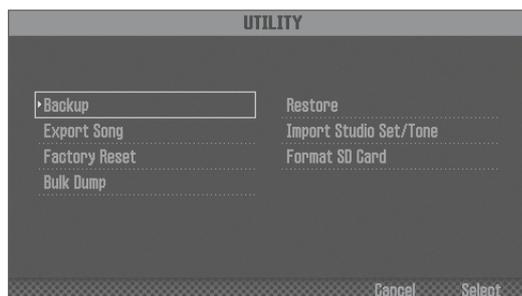
本機で作った MIDI トラックを WAV ファイル形式にエクスポートし、DAW ソフトウェアに取り込むことができます。

MIDIトラックを WAV 形式で保存する (マルチトラック・エクスポート)

現在選ばれているソングを、トラックごとに WAV 形式のファイルにして、一度にエクスポートすることができます。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「Utility」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

UTILITY 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンで「Export Song」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
4. カーソル・ボタンで「Wav (Multitrack)」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
5. [ENTER] ボタンを押します。

確認のメッセージが表示されます。

中止するときは、[7] (Cancel) ボタンを押します。

6. 実行するときは [6] (OK) ボタンを押します。
- エクスポートした WAV ファイルは、SD カードの EXPORT TRACK フォルダーに保存されます。

メモ

2 ミックスや SMF 形式でのエクスポートもすることができます。

ご注意!

エクスポート中は、絶対に電源を切らないでください。

WAV ファイルを DAW ソフトウェアに取り込む

エクスポートした WAV ファイルを DAW ソフトウェアに取り込みます。

1. リア・パネルの SD カード・プロテクターのネジをはずします。

工場出荷時は、図の位置に SD カード・プロテクターのネジが取り付けられています。カード・プロテクターをはずすには、まずプラス・ドライバーを使ってネジを取りはずしてください。



2. SD カードを抜きます。

※ 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードを抜いたりしないでください。

※ 記録中は、絶対に SD カードを抜かないでください。

3. パソコンに SD カードを挿入します。

お使いのパソコンに SD カード・スロットがない場合は、市販の SD カード・リーダーを使ってください。

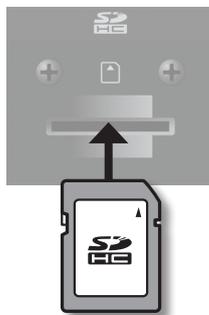
4. SD カードの中の EXPORT TRACK フォルダーにある WAV ファイルを、パソコンにコピーします。

5. お使いの DAW ソフトウェアを起動して、WAV ファイルを取り込みます。

WAV ファイルの取り込み方法については、お使いの DAW ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

6. SD カードの接続を解除し、パソコンから SD カードを抜きます。

7. 本機に SD カードを挿入します。

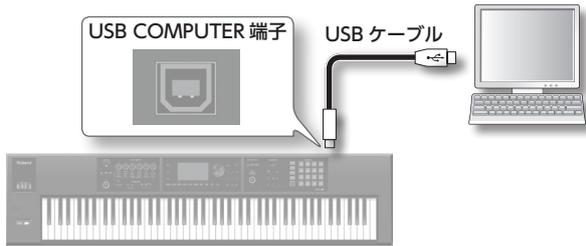


本機を DAW コントローラーとして使う

DAW ソフトウェアのコントローラーとして使うことができます。
本機は DAW コントロール・マップを搭載しています。コントロール・マップを使って、簡単に各種 DAW ソフトウェアに合った設定にすることができます。

USB ドライバーをインストールする

USB ドライバーは、パソコン上のソフトウェアと本機との間でデータをやりとりするソフトウェアです。
本機パソコンに接続してお使いになるには、USB ドライバーのインストールが必要です。



メモ

USB ドライバーのダウンロードとインストール手順について詳しくは、ローランドのホームページをご覧ください。
<https://www.roland.com/jp/support/>

本機で DAW ソフトウェアをコントロールする

1. 本機とパソコンを接続します。

確認のメッセージが表示されます。



2. [6] (OK) ボタンを押します。

DAW コントロール・モードがオンになり、DAW CONTROL 画面が表示されます。



メモ

[DAW CONTROL] ボタンを押して、DAW コントロール・モードをオン/オフすることもできます。

3. 「CONTROL MAP」にカーソルを合わせ、ダイヤルでお使いの DAW ソフトウェアを選びます。

対応 DAW ソフトウェア

LOGIC PRO

SONAR

CUBASE

4. お使いの DAW ソフトウェアを起動して、操作するプロジェクト・ファイルを開きます。

5. 選んだ DAW ソフトウェアに応じた、コントロール・サーフェスの設定をします。

詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) の『DAW 編』をご覧ください。

6. 本機を操作して、DAW ソフトウェアをコントロールします。

操作できる操作子	説明
[▶] ボタン	再生を始めます。
[●] ボタン	録音待機状態のトラックの録音を開始します。
[◀] ボタン	現在位置を先頭に戻します。
[◀◀] ボタン	巻き戻しします。
[▶▶] ボタン	早送りします。
[■] ボタン	録音や再生を停止します。
[▶] ボタン ~ [■] ボタン	は、コントロール・サーフェス Mackie Control に準拠しています。
パッド [1] ~ [8]	コントロール・サーフェス Mackie Control の Function ボタン (F1 ~ F8) に準拠しています。
[1] ~ [6] つまみ	割り当てた機能をコントロールすることができます。
[S1] [S2] ボタン	

こんなことができます

本機では、DAW ソフトウェアのコントロール以外に、以下のことができます。

- 本機を MIDI 鍵盤として使う。
- 本機でソフトウェア音源を演奏する。
- DAW ソフトウェアで本機の音源を鳴らす。
- 本機をオーディオ・インターフェースとして使う。

メモ

詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) の『DAW 編』をご覧ください。

各機能の詳細設定をする (Menu)

1. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
2. カーソル・ボタンでメニューを選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. 選んだメニューに応じて、設定を変更します。

メモ

各メニューについて、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

メニュー	説明
Tone Edit	トーンのエディットをします (P.17)。
Effect Edit	エフェクトのエディットをします (P.18)。
Part View	パートの設定一覧を表示します (P.17)。
Studio Set Common	スタジオ・セット全体の設定をします (P.17)。
Studio Set Init	スタジオ・セットの初期化をします。
Tone List	トーン一覧を表示します。
Mixer	パンや音量バランスを調節することができます。
System	本機全体の設定をします。
Utility	データのバックアップやSDカードの初期化をします。
Wireless	ワイヤレス LAN 機能の設定をします。

ユーザー・データをバックアップする (Backup / Restore)

本機に記憶されているすべての設定を、SD カードに保存したり (バックアップ)、本体に書き戻したり (リストア) することができます。

SD カードにバックアップする (Backup)

ご注意!

SD カードに保存されているバックアップ・データと同じファイル名でバックアップすると、データは上書きされます。新たにバックアップするときは、別名を付けてください。

1. MENU 画面で「Utility」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
UTILITY 画面が表示されます。
2. カーソル・ボタンで「Backup」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
3. [2] (Rename) ボタンを押して、バックアップするファイルに名前を付けます (P.18)。
4. [7] (Backup) ボタンを押します。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、[7] (Cancel) ボタンを押します。
5. 実行するときは [6] (OK) ボタンを押します。

ご注意!

バックアップ中は、絶対に電源を切らないでください。

バックアップしたデータを本体に戻す (Restore)

1. UTILITY 画面で「Restore」を選び [ENTER] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンでリストアするファイルを選び、[7] (Restore) ボタンを押します。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、[7] (Cancel) ボタンを押します。

ご注意!

リストア操作をすると、現在本機に保存されているすべての設定は消えてしまいます。現在の設定を残しておきたいときは、別の名前を付けてバックアップしてください。

3. 実行するときは [6] (OK) ボタンを押します。
- ご注意!**
リストア中は、絶対に電源を切らないでください。
4. 電源を入れ直します (P.9)。

工場出荷時の設定に戻す (Factory Reset)

本機に記憶した設定を、工場出荷時の設定に戻すことができます (ファクトリー・リセット)。

ご注意!

ファクトリー・リセットをすると、本機に保存されているデータは、すべて失われてしまいます。データを残しておきたいときは、SD カードにバックアップしてください。

1. MENU 画面で「Utility」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「Factory Reset」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、[7] (Cancel) ボタンを押します。
3. 実行するときは [6] (OK) ボタンを押します。

ご注意!

- ・ファクトリー・リセット中は、絶対に電源を切らないでください。
- ・SD カードのデータは工場出荷時の設定に戻りません。

安全上のご注意

警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.9)。



指定のスタンドを使用する

本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド (*1) を使用してください。



不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンド (*1) を使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。



スタンドへ設置するときの注意

『リファレンス・マニュアル』(PDF) の指示どおりに設置してください。正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。



スタンドへの設置方法について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) の『スタンドに設置する』をご覧ください。

警告

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



注意

指定のスタンドのみ使用する

本機は当社製のスタンド (*1) とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。



スタンドを使う前に安全を確認する

『リファレンス・マニュアル』(PDF) に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。



注意

移動するときの注意 (FA-08)

本機を移動するときには以下のことを確認したあと、必ず 2 人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんだり、足の上に落としたりしないように注意してください。



- 電源コードをはずす。
- 外部機器との接続をはずす。

小さな部品はお子様の手の届かないところに置く

下記の部品はお子様が悪く飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。



- 取りはずしが可能な部品ネジ (P.24)
- SD カード・プロテクター (P.24)

接地端子の取り扱いに注意する

接地端子ネジは、お子様が誤って飲み込んだりすることのないよう取りはずした状態で放置しないでください。再度ネジを取り付ける際は、ゆるんではずれないように確実に取り付けてください。



*1 FA-06、FA-07 : KS-18Z / KS-12、FA-08 : KS-18Z / KS-12 / KS-G8B

使用上のご注意

設置について

- 鍵盤の上にもものを置いたままにしないでください。発音しなくなるなど、故障の原因になります。
- 設置条件 (設置面の材質、温度など) によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ディスプレイを強く押ししたり、叩いたりしないでください。
- エクスペッション・ペダルは、必ず指定のもの (別売 : EV-5) をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
- D-BEAM コントローラーの有効範囲は、強い直射日光の下では極端に小さくなってしまいます。屋外で D-BEAM コントローラーを使用するときはご注意ください。

- D-BEAM コントローラーは周辺の明るさによって感度が変化します。期待どりの動作をしないときは、感度を調節し直してください。

外部メモリーの取り扱い

- 外部メモリーを使うときは、次の点に注意してください。
 - 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
 - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。
 - 端子部は手や金属で触れたり、汚したりしない。
 - 曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
 - 直射日光の当たる場所や、閉め切った自動車の中などに放置しない。
 - 水に濡らさない。
 - 分解や改造をしない。

知的財産権について

- 第三者の著作物 (音楽作品、映像作品、放送、実演、その他) の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど) の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (ただしデモ曲などの楽曲データは除く) を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布することに関しては、当社の許諾を必要としません。

- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのままもしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- MPEG Layer-3 オーディオ圧縮技術は、Fraunhofer IIS 社および THOMSON からライセンスを受けています。
- SD ロゴ (SD) および SDHC ロゴ (SDHC) は SD-3C, LLC の商標です。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム [eParts™] が搭載されています。
- Roland、SuperNATURAL、INTEGRA、D-BEAM、Ivory Feel、Air Recorder は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

主な仕様

ローランド FA-06、FA-07、FA-08：シンセサイザー・キーボード（GM2 システム対応）

	FA-06	FA-07	FA-08
鍵盤	61 鍵（ペロシティー対応）	76 鍵（ペロシティー対応）	88 鍵（アイボリー・フィール G 鍵盤、エスケープメント付き）
電源	AC アダプター		
消費電流	1,300mA		
外形寸法	1,008（幅）× 300（奥行）× 101（高さ） mm	1,231（幅）× 311（奥行）× 107（高さ） mm	1,415（幅）× 340（奥行）× 142（高さ） mm
質量	5.7kg	8.5kg	16.5kg
付属品	クイック・スタート 『安全上のご注意』チラシ AC アダプター 電源コード SD カード（出荷時に本体装着済み） SD カード・プロテクター（出荷時に本体装着済み） 保証書 ローランド ユーザー登録カード		
別売品	キーボード・スタンド（*1）：KS-18Z、KS-12	キーボード・スタンド（*1）：KS-18Z、KS-12	キーボード・スタンド（*1）：KS-18Z、KS-12、 KS-G8B
	ペダル・スイッチ：DP シリーズ エクスペディション・ペダル：EV-5 USB メモリー（*2） *1 KS-18Z をお使いになるときは、設置の高さが 1m 以下になるようにしてください。 *2 市販の USB メモリーまたはローランドが販売している USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。		

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

メモ

スタンドへの設置方法について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』（PDF）の『スタンドに設置する』をご覧ください。